

# 熊本県公立学校事務職員協会創立 70周年記念誌



平成29年10月20日（金）

## 目次

I	御挨拶	1
II	熊本県公立学校事務職員協会70年のあゆみ	3
III	春季・秋季研究会のあゆみ	4
IV	研究発表のあゆみ	
	＜全国公立高等学校事務職員研究大会＞	6
	＜全国公立高等学校事務職員協会九州協議会研究大会＞	7
	＜熊本県公立学校事務職員協会秋季研究会＞	8
V	過去10年内の九州協議会研究大会（熊本大会）について	10
VI	歴代会長一覧	11
VII	過去10年の役員一覧	13
VIII	寄稿文～事務職員協会70周年にあたって～	
	＜歴代協会長＞	15
	＜現役各地区事務職員＞	22
	＜副会長・理事＞	32

## IX 編集後記

～事務職員協会ありし日のひとコマ～  
昭和50年代前半に行われていた事務職員協会ソフトボール大会のものです。





## 御 挨拶

熊本県公立学校事務職員協会

会 長 嘉悦 良吉

(熊本県立第二高等学校 主任事務長)

熊本県公立学校事務職員協会が昭和23年に先輩諸氏の多大なる御尽力により産声を上げて、本年度、70周年という節目を迎えることができました。これもひとえに本協会発足以来、多くの事務職員の皆様に支えていただいた賜だと、深く感謝申し上げます。連綿と続いた伝統を絶やすことなく、諸先輩方が頑張ってきたことを思い浮かべますと、頭が下る思いで一杯です。

ここに秋季研究会の開催とともに、発足70周年記念事業を開催できますことは、本協会にとりまして、大変喜ばしいものです。

今日まで本協会を御支援頂きました関係の皆様方、また、公務御多用にも関わらず御臨席を賜りました御来賓の皆様、さらに本日参加いただきました協会員並びに関係教育機関の皆様方に、心からお礼申し上げます。

今後も、諸先輩方の学校事務に関する研究と、研鑽に取り組まれた環境を引き継ぎ、その大切な財産を、これから続く学校事務職員へとつなぐために、事務職員協会の活動と事務職員の資質向上に取り組んで行く所存です。

さて、近年の学校を取り巻く教育環境の変化は、私たち学校事務職員にとりまして、大変厳しいものがあります。遠くは、パソコンなどの電子機器類や財務会計システムの導入に伴う事務職員数の削減、ICT導入による情報活用能力の育成に係る整備事業の展開。また、教育政策の転換などにより、新たな就学支援制度導入による業務量の増加や、チームとしての学校の在り方、また、これまでの自己評価に代わる業績評価と能力評価による新たな人事評価制度の導入、そして、最近では中教審特別部会の緊急提言による「学校における働き方改革」への対応が挙げられます。この改革は、具体的には学校での勤務時間を意識した働き方や教職員の業務改善の取組を強く推進していくこと、それらの取組のために国が勤務環境整備の支援を充実させること、などが中心となると思います。教員に対する負担軽減は必要なことと思いますが、その影響が学校事務職員等の他の職種へ波及し、それが業務量の増加や今以上の負担増につながらないように、注意して見て行きたいと思います。

ところで、昨年4月14日(木)と16日(土)に発生した「平成28年熊本地震」は、熊本県内をはじめ、九州地域に大きな被害をもたらしました。中でも震源地周辺の学校は甚大な被害を受け、通常の学校業務が突然停止しました。地震後、避難所運営などの業務に携わることになり、また生活の拠点を失い、車中泊が続いた職員も数多くおり、不自由な生活を余儀なくされました。

さらに、県内では震災関連・二次災害を含め、240人以上の尊い命が犠牲に

なりました。また、19万棟以上の建物が被害を受け、今でも仮設住宅やみなし仮設、そして公営住宅に多くの方が入居されています。早い時期での再建が望まれるところです。

そのような地震の影響が大きかった中、職員の肉体的・精神的疲労は、想像を超えるものがあり、体調を崩す職員もいたと聞いています。今なお復旧・復興に向けた工事が進んでいる学校があります。一刻も早く、児童・生徒の笑顔で満ちた、元気一杯な学校に戻ってほしいと願うばかりです。

私たち学校事務職員においても、震災被害により、通常業務にプラスして震災関係の膨大な業務が増えました。日常の業務をこなしながら、更に震災業務も処理しなければならない負担による、学校事務職員の健康状態が今後も心配です。少しでも軽減できるよう、お互い支え合って行きたいと思います。

なお、昨年度、熊本地震により被害を受けた協会員に対して、全国協会をはじめ全国の学校事務職員の仲間から、義援金をいただきました。今年3月までに対象の方への配分は終えましたが、全国の仲間の温かい御支援並びに御援助に対して、深く感謝申し上げます。

平成28年熊本地震が発生した年は、本県で九州協議会研究大会並びに総会を、6月に熊本市で開催する予定でした。鬼塚正文実行委員長（当時の本県協会長）を中心に、実行委員全員の努力で着々と準備が整いつつある、まさに開催間近の時期での発生でした。地震直後は、大会を開催できるのか否か、動揺がありました。当時、実行委員の在籍校の多くが被災校となり、それに関連して避難所運営や復旧業務に、委員の多くが携わりました。地震から約2週間後の4月28日（木）に常任委員会を開催し、大会を開催するのか中止するのかを協議しました。結果、期日を約1か月延ばし、7月5日（火）と6日（水）に会場を変更して、開催することとしました。九州大会の継続と次期開催県の長崎県へとバトンを渡し、無事つなぐことができました。長崎県協会長様から「記録にも、記憶にも残る大会となった」との言葉をいただきました。大会期間中も、まだ余震が続く中でしたが、成功裡に終えることができ、胸をなで下ろしたことを、今でも鮮明に覚えています。

これは、九州の多くの仲間に応援していただいたことや、自宅あるいは勤務校が被災した中でも、大会成功に向けて協力していただいた実行委員を始めとした、協会員皆様の存在が大きかったと思います。有り余る御協力と御支援に感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。

この経験は、私たち協会員にとって、必ずや将来に活かすことができると信じています。

最後になりましたが、今後も本協会が研究活動の推進を十分に図り、更なる研究の充実がなされるよう、協会員の一層の活躍に期待し、挨拶といたします。



～春季・秋季研究会のあゆみ～(研究発表除く)

年度	季	主な内容		
19	春季	講話「学校事務職員としての幅」	高校教育課課長 石井 博憲 様	
		実務研修 「定期検査における指摘事項、授業料徴収、他について」	学校人事課主幹 木下 行満 様	
		5.22 ～ 5.23	実務研修「会計事務について」	会計課主任主事 松永 健 様
		実務研修「工事・委託料の支出事務等について」	施設課参事 重松 隆 様	
	秋季	講話「人生を輝かせるこころの健康づくり」	済生会熊本病院健康センター 名誉顧問 須古 修二 様	
		実務研修「ALT関係事務について」	高校教育課参事 出田 朗 様	
		「施設・設備について」「奨学金について」	坂本 一也 様	
		10.24 ～ 10.25	班別討議	
		講話「事務職員のみなさまへ期待すること」	福利厚生課課長 中村 義臣 様	
		実務研修「警備業務委託入札事務について」	学校人事課主任主事 中村 真哉 様	
		「授業料システム変更について」「授業料減免について」	芥川 玲子 様	
20	春季	※九州大会のため開催無し		
	秋季	講話「教育改革の流れの中で自分の職責を眺める」	崇城大学教授 柿塚 純男 様	
		実務研修「校務情報化について」	教育政策課指導主事 柿下 耕一 様	
		実務研修「学校施設の省エネ対策について」	施設課主幹 重松 隆 様	
		11.11 ～ 11.12	全国大会復講	松橋高校 佐土原 宏明、熊本工業高校 天草 英子 球磨工業高校 竹尾 知里
			実務研修「授業料減免制度について」	学校人事課参事 八岡 利洋 様
			「給与関係の電子報告について」	主事 塚本 武道 様
			班別協議	「エコスクール」に対する各学校の取組
		講話「学校におけるエコアクション」	九州環境管理協会事業本部長 松岡 信明 様	
21	春季	講話「『学校』事務の価値」	教育次長 岩瀬 弘一 様	
		実務研修 「平成21年度予算について、授業料減免等について」	学校人事課主幹 竹本 民和 様 参事 八岡 利洋 様	
		5.25 ～ 5.26	実務研修「育英資金制度等について」	高校教育課課長補佐 元嶋 茂 様
		実務研修「会計制度について」	会計課参事 鳥井 佐智子 様	
	秋季	実務研修「物品管理について」	管理調達課参事 原 淳子 様	
		実務研修「校務情報化(グループウェア導入)について」	熊本西高校 重松 憲明	
		講話「くまもと『夢への架け橋』教育プランの概要」	教育政策課課長 松永 正男 様	
		実務研修「情報セキュリティについて」	教育政策課指導主事 柿下 耕一 様	
			実務研修「施設の安全管理とユニバーサルデザインについて」	施設課参事 古澤 秀一 様
	10.27 ～ 10.28	全国大会(富山大会)復講	玉名高校 山下 政道、熊本工業高校 迫丸 泰代 済々黌高校 加藤 敏倫	
		実務研修「年金・短期給付について」	福利厚生課主任主事 柴田 竜一 様 主任主事 松村 理恵 様	
		講話「いのちいただきまへず 目からうろこの食の話」	NPO法人大地といのちの会理事長 吉田 俊道 様	
		班別協議「学校事務の価値」		
22	春季	講話「教育委員会における今日的課題について」	教育次長 岡村 範明 様	
		実務研修「不祥事防止等について」	学校人事課参事 楠田 美和 様	
		5.24 ～ 5.25	実務研修「工事請負等について」	施設課主幹 重松 隆 様
		実務研修「グループウェア及びグループウェアと総合 財務会計システムとの連携による旅費支払いについて」	教育政策課指導主事 柿下 耕一 様	
			実務研修「適正な会計処理について」	会計課課長補佐 村上 勲 様 主幹 堀田 政一 様
	秋季	講話「これからの学校事務職員員に求められるもの」	学校人事課長 柳田 誠喜 様	
		実務研修「電子入札事務について」	第一高校 島田 浩平、熊本養護学校 羽山 由里 ひのくに高等養護学校 松田 和己	
		10.28 ～ 10.29	実務研修・講話 「教員一人1台PC実現により学校事務はどう変わるのか」	日本電気株式会社 文教・科学ソリューション部 主任 井上 義裕 様
実務研修「事務室の機能向上をめざして」		佐賀県立学校事務職員協会 様		
		実務研修「不適正経理の再発防止について」	会計課課長補佐 村上 勲 様	
		班別協議「適正な会計処理について」		
23	春季	講話「人材育成～ヒューマン・リソース・マネジメントの観点から～」	教育次長 松永 正男 様	
		実務研修 「物品調達等に関する不適正経理 再発防止策の検証について」	教育政策課参事 淀川 豊輝 様 参事 池田 貴也 様	
		5.25 ～ 5.26	実務研修「平成22年度監査委員事務局 定期監査結果について」	監査委員事務局課長補佐 磯部 亮 様 学校人事課参事 松田 和也 様
		中堅事務職員研修復講	熊本西高校 重松 憲明	
			実務研修「電子情報の適切な取り扱いについて」	教育政策課指導主事 太田 浩樹 様
			班別協議「電子情報の適切な取り扱いについて」	
	秋季	講話「私と事務室の関係史」	総括審議員兼教育次長 岩瀬 弘一 様	
		実務研修「教頭が求める事務室」	大津高校教頭 前田 高光 様 菊池高校教頭 坂本 弘史 様	
		9.8 ～ 9.9	全国大会(京都大会)復講	球磨工業高校 岡本 秀一、芦北養護学校 永末 あづみ 菊池農業高校 井 由紀子、盲学校 志田 静香
		実務研修「電子化はできんか。ボクは電じか!？」	鹿児島県公立学校事務職員協会 様	
			実務研修「給与制度について」	学校人事課主幹 泉 隆雄 様
			実務研修「工事請負等について」	施設課主任技師 嘉悦 正英 様

～春季・秋季研究会のあゆみ～(研究発表除く)

年度	季	主な内容	
24	春季	講話「よりよい仕事の進め方」	教育理事 松葉 成正 様
		中堅事務職員研修復講	氷川高校 吉澤 美保子
		5.23 実務研修「民間から学校経営に期待すること」	熊本ファミリー銀行玉名ブロック長兼 玉名支店長 西 起宏 様
	秋季	講話「これからの学校事務職員に期待すること」	学校人事課長 柳田 誠喜 様
		講演「新たな転換期にある我が国を取り巻く状況 ＝将来を担う人「財」の育成に向けて」	熊本大学学長 谷口 功 様
		10.26 実務研修「機械警備に伴う電子入札事務について」	管理調達課主任主事 奥園 亮輔 様 学校人事課参事 堀部 久寿男 様
		実務研修「エネルギー管理標準作成方法について」	教育政策課主任主事 田中 セリカ 様
班別討議「当面の諸問題等解決を求めて」			
報告「青年海外協力隊派遣を経験して」	天草高校 主任事務職員 富田 賢		
25	春季	講話「今後の人口減少社会について」	学校人事課長 山本 國雄 様
		中堅事務職員研修復講	球磨工業高校 岡本 秀一
		5.29 講演「今、語り続けたいこと 私の思い」	熊本県文化協会会長 吉丸 良治 様
	班別協議	「直面する課題の解決について」	
	秋季	講話「これからの教育行政職員に期待すること」	教育総務局長 柳田 誠喜 様
		講演「すばらしい音楽との出会い」	平成音楽大学学長 出田 敬三 様
10.25 実務研修「電子入札の進め方(契約全般)」		済々黌高校 安藤 拓雄	
実務研修「物品の売却・処分方法について」	出納局管理調達課参事 渡邊 美取 様		
班別討議			
26	春季	講話「学校における財務事務の適正化」	監査委員事務局監査監 瀬戸 浩一 様
		実務研修「授業料及び就学支援金制度について」	学校人事課総務係
		講演「危機管理を考えよう」	熊本県立劇場館長 葉山 完治 様
		5.20 中堅事務職員研修復講	八代高校 長瀬 睦美
	班別協議	「直面する課題の解決について」	
	秋季	講話「教育行政職の役割と期待すること」	学校人事課審議員 西浦 一義 様
		講演「生きること」	青磁野リハビリテーション病院理事長 金澤 知徳 様
		10.24 実務研修「電子入札の実務について」	土木部監理課
全国大会(岩手大会)復講		北稜高校 赤星 浩一	
業務別班別討議			
27	春季	講話「人権教育の充実を目指して」	人権同和教育課審議員 森上 大右 様
		中堅事務職員研修復講	天草高校 富田 賢
		5.19 実務研修「就学支援金制度等について」	学校人事課総務係
	班別協議		
	秋季	講話「学校事務職員(教育行政職員)に期待すること」	学校人事課審議員 西浦 一義 様
		10.23 実務研修 「年金制度一元化及び標準報酬移行について」	福利厚生室参事 柿原 一広 様
講演「伝統工芸について」		公益財団法人熊本国際民藝館館長 井上 泰秋 様	
班別協議			
実務研修「接遇向上について」	DVD視聴		
28	春季	※九州大会のため開催無し	
	秋季	講話「学校事務職・教育行政職の役割と期待」	学校人事課審議員 福永 公彦 様
		実務研修「会計事務について」	会計課主幹 磯部 亮 様
	10.21 講演「熊本地震の教訓に学ぶ防災」	歌うママ消防士 柳原 志保 様	
全国大会(徳島大会)復講	八代工業高校 松永 朋美		

～研究発表のあゆみ（平成19年度～28年度）～

< 全国公立高等学校事務職員研究大会 >

年 (開催地)	発表内容	発表者
平成22年 (岡山市)	<p>事務室から見たヒヤリハットと危機管理 ～快適で安全な学校生活をめざして～</p> 	<p>熊本養護学校 事務主査 羽山 由里 盲学校 事務長 多田 和子 黒石原養護学校 事務主査 森 幸世 松橋養護学校 事務主査 塩宮 幸代</p>
平成28年 (徳島市)	<p>学校事務職員の「絆」 ～GJ Work Note 後輩へ贈る仕事術～</p>  	<p>水俣高等学校 主任事務職員 松本 哲郎 八代工業高等学校 主任事務職員 田中 拓海 八代工業高等学校 事務職員 松永 朋美</p> 

< 全国公立高等学校事務職員協会九州協議会研究大会 >

年 (開催地)	発表内容	発表者
平成19年 (鹿児島市)	不審者から学校を守る ～日頃の取り組みと危機発生時の対応について～	荒尾高校 主任事務職員 富田 賢 玉名高校 主任事務職員 猿渡 伸一
平成20年 (熊本市)	結婚、出産、育休に伴う事務手続きについて ～全職員が分かるマニュアル作りを目指して～	牛深高校 主任事務職員 中尾 雄策
平成21年 (佐世保市)	事務室から見たヒヤリハットと危機管理 ～快適で安全な学校生活をめざして～  	大津養護学校 事務主査 井上 貴史 熊本養護学校 事務主査 羽山 由里 松橋東養護学校 事務職員 玉田 雅子 小国養護学校 主任事務職員 後藤 浩
平成22年 (武雄市)	ドキュメント 学校災害31時 ～その時、あなたはどうか判断する～	八代農業高校 事務主査 野崎 公明 主任事務職員 唐木 淳至
平成23年 (宮崎市)	宇城・上益城地区県立学校における施設 設備の現状と課題	小川工業高校 主任事務職員 濱崎 豪
平成24年 (福岡市)	省エネ・環境活動についてもっと考えて みよう ～小さなことからコツコツと～	阿蘇中央高校 事務主査 田上 修 事務職員 小路永 智美
平成25年 (浦添市)	サービス関係事務の手引き改訂版作成  	済々黌高校 事務職員 ヒゴ 綾 盲学校 事務職員 村田 智奈美
平成26年 (大分市)	熊本県教育委員会行政文書管理規程にお ける行政文書分類標準案の作成について ～自分たちで作ったモン～	天草高校 事務職員 星子 雅彦
平成27年 (鹿児島市)	事務改善について  	第二高校 主任事務職員 園田桂一郎 事務職員 柳田 耕輔

< 熊本県公立学校事務職員協会秋季研究会 >

年	発表内容	発表者
平成19年	①結婚、出産、育休に伴う事務手続き ～全職員が分かるマニュアル作りを 目指して～	①天草地区 天草高校 主任事務職員 中尾雄策
	②サービス関係事務の手引について	②熊本市地区 熊本農業高校 事務職員 釜崎裕子
平成20年	①ヒヤリ・ハットの危機管理  	①特別支援学校研究グループ 大津養護学校 事務主査 井上貴史 熊本養護学校 事務主査 羽山由里 松橋東養護学校 事務職員 玉田雅子 小国養護学校 主任事務職員 後藤 浩
	②菊池高校エコスクール日本一計画	②菊池・鹿本地区 菊池高校 事務主査 西 雅子
平成21年	①育児休業制度等について ～事務処理マニュアル～  	①荒尾・玉名地区 玉名高校 事務主査 西 雅子 北稜高校 事務主査 松本敏子 玉名工業高校 事務主査 赤星浩一 南関高校 事務主査 高田英樹 荒尾養護学校 主任事務職員 小沢倫代 荒尾高校 事務職員 上原 望
	②ドキュメント 学校災害31時  	②八代地区 八代農業高校 事務職員 唐木淳至 事務主査 野崎公明
平成22年	①学校事務職員一人ひとりの能力が 発揮できる魅力ある学校事務の創造 ～文書セキュアシステムの定着と 活用を通して～	①熊本市地区 熊本商業高校 事務主査 桑原 靖
	②宇城・上益城地区県立学校の施設 設備の現状と課題について  	②宇城地区 小川工業高校 主任事務職員 濱崎 豪

年	発表内容	発表者
平成23年	①省エネ・環境活動についてもっと考えてみよう ～小さなことからコツコツと～	①阿蘇・大津地区 阿蘇中央高校 事務職員 小路永智美
	②Everyday, 事務引継ぎ ～慌てないで 困ったときもばっちりです～	②芦北・水俣地区 水俣高校 事務職員 高木理美 水俣工業高校 事務職員 古里真美
平成24年	①サービス関係事務の手引きについて 	①熊本市地区 第一高校 事務職員 片山博史 熊本農業高校 事務職員 川端 亨
	②～学校が避難所になったら～ 	②人吉・球磨地区 球磨工業高校 事務職員 竹尾知里 球磨商業高校 事務職員 上田祐子
平成25年	①熊本県教育委員会行政文書管理規程における行政文書分類標準案の作成について	①天草地区 天草高校 事務職員 星子雅彦
平成26年	①熊本県就学支援金制度事務処理における現状	①荒尾・玉名地区 玉名高校 事務職員 川崎朋美
	②事務改善について 	②熊本市地区 第二高校 主任事務職員 園田桂一郎 事務職員 柳田耕輔
平成27年	①学校の危険箇所への対応 	①阿蘇・大津地区 阿蘇中央高校 事務職員 森岡真生 大津支援学校 事務職員 山崎詩織
	②『学校事務職員の「絆」 ～GJ Work Note 後輩へ贈る仕事術～』 	②八代・芦北・水俣地区 八代農業高校 主任事務職員 田中陽子 水俣高校 主任事務職員 松本哲郎 八代工業高校 事務職員 田中拓海
平成28年	①県立学校の避難所としての備え ～近年の災害の実体験を参考として～	①球磨・人吉地区 球磨工業高校 事務職員 山口翔吾 南稜高校 事務職員 白柿郁実
	②“事務の効率化”のエッセンスを求めて～序章～	②宇城・上益城地区 甲佐高校 主任事務職員 園田寿子 御船高校 事務職員 結城 熙

～過去10年内の九州協議会研究大会（熊本大会）について～

＜第56回全国公立高等学校事務職員協会九州協議会研究大会＞

期間：平成20年6月11日（水）～13日（金）

会場：熊本市民会館

特別講演：チャーリー永谷 様

内容：

6月11日（水）

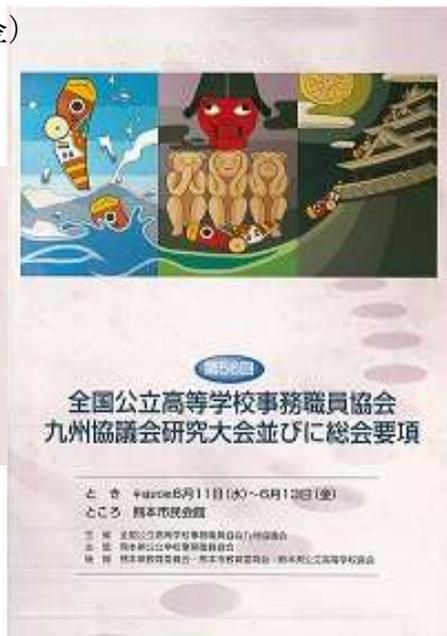
九州協議会役員会

6月12日（木）

開会式、研究発表

6月13日（金）

研究発表講評、特別講演、総会



＜第64回全国公立高等学校事務職員協会九州協議会研究大会＞

期間：平成28年7月5日（火）～6日（水）

会場：KKR ホテル熊本

特別講演：出田 敬三 様（平成音楽大学 学長）

内容：

7月5日（火）

九州協議会役員会、開会式、研究発表

7月6日（水）

研究発表、特別講演、総会



## 熊本県公立学校事務職員協会 歴代会長一覧

＜ 昭和 50 年度～平成 8 年度 ＞

年度	会長名	学校名
昭和 5 0 年度(1975)	篠原 晃	済々黌高等学校
昭和 5 1 年度(1976)	篠原 晃	済々黌高等学校
昭和 5 2 年度(1977)	篠原 晃	済々黌高等学校
昭和 5 3 年度(1978)	篠原 晃	済々黌高等学校
昭和 5 4 年度(1979)	井上 十四春	済々黌高等学校
昭和 5 5 年度(1980)	井上 十四春	済々黌高等学校
昭和 5 6 年度(1981)	井上 十四春	済々黌高等学校
昭和 5 7 年度(1982)	井上 十四春	済々黌高等学校
昭和 5 8 年度(1983)	井上 十四春	済々黌高等学校
昭和 5 9 年度(1984)	井上 十四春	済々黌高等学校
昭和 6 0 年度(1985)	伊豆 国昭	熊本北高等学校
昭和 6 1 年度(1986)	伊豆 国昭	熊本北高等学校
昭和 6 2 年度(1987)	伊豆 国昭	熊本北高等学校
昭和 6 3 年度(1988)	伊豆 国昭	熊本北高等学校
平成元年度(1989)	伊豆 国昭	熊本北高等学校
平成 2 年度(1990)	笹原 康弘	済々黌高等学校
平成 3 年度(1991)	笹原 康弘	済々黌高等学校
平成 4 年度(1992)	笹原 康弘	済々黌高等学校
平成 5 年度(1993)	笹原 康弘	済々黌高等学校
平成 6 年度(1994)	中村 邦彦	熊本商業高等学校
平成 7 年度(1995)	石原 武雄	第一高等学校
平成 8 年度(1996)	徳永 公治	熊本養護学校

## 熊本県公立学校事務職員協会 歴代会長一覧

＜ 平成 9 年度～29 年度 ＞

年度	会長名	学校名
平成 9 年度(1997)	徳永 公治	熊本養護学校
平成 1 0 年度(1998)	高山 薫	熊本北高等学校
平成 1 1 年度(1999)	高山 薫	第二高等学校
平成 1 2 年度(2000)	高山 薫	第二高等学校
平成 1 3 年度(2001)	熊迫 優	熊本高等学校
平成 1 4 年度(2002)	熊迫 優	熊本高等学校
平成 1 5 年度(2003)	木原 哲夫	盲学校
平成 1 6 年度(2004)	木原 哲夫	盲学校
平成 1 7 年度(2005)	前田 高光	熊本農業高等学校
平成 1 8 年度(2006)	前田 高光	熊本農業高等学校
平成 1 9 年度(2007)	廣重 俊行	八代工業高等学校
平成 2 0 年度(2008)	坂本 弘史	熊本工業高等学校
平成 2 1 年度(2009)	坂本 弘史	熊本工業高等学校
平成 2 2 年度(2010)	中村 知子	第一高等学校
平成 2 3 年度(2011)	中村 知子	第一高等学校
平成 2 4 年度(2012)	田中 秀実	第二高等学校
平成 2 5 年度(2013)	田中 秀実	第二高等学校
平成 2 6 年度(2014)	鬼塚 正文	熊本工業高等学校
平成 2 7 年度(2015)	鬼塚 正文	熊本工業高等学校
平成 2 8 年度(2016)	嘉悦 良吉	第二高等学校
平成 2 9 年度(2017)	嘉悦 良吉	第二高等学校

～役員一覧（平成19年度～23年度）～

年度	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
会長	廣重 俊行	坂本 弘史	坂本 弘史	中村 知子	中村 知子
副会長 (城北)	中里 文子	森 幸世	森 幸世	越智 章茂	越智 章茂
副会長 (熊本)	坂本 弘史	羽山 賢一	羽山 賢一	羽山 賢一	田中 秀実
副会長 (城南)	木村 盛慈	木村 盛慈	木村 盛慈	木村 盛慈	中村 真哉
代議員 (城北)	森 幸世	古家 千荷	黒原 暁	小路永智美	高木 幸代
	田上 修	後藤 浩	福嶋 弘毅	小沢 倫代	小沢 倫代
	山下 政道	宮里 志保	嶋田 誠	井 由紀子	阿田 生子
代議員 (熊本)	長廣 剛	宮里 淳一	恒松 美鈴	田尻 裕一	矢島 幸美
	釜崎 裕子	藤本 洋美	藤本 泰二	星子 雅彦	志田 静香
代議員 (城南)	松田 和也	高橋 幸恵	山下真貴子	小馬田 裕	唐木 淳至
	池辺里恵子	坂井 優美	木村 由紀	村本 幸子	小馬田郁子
	白川 浩嗣	濱崎 豪	田上 伸也	吉田もと子	西浦 裕美
	橋本 洋子	淀川 豊輝	井 由紀子	真鍋 敏也	小森田和子
	片山 博史	稲崎 智美	山口 薫	辻 沙知	高木 理美
監事 (城北)	赤星 浩一	井上 貴史	鶴田 博信	山下 政道	佐分利秀一
監事 (熊本)	恒松 美鈴	宮崎 路子	藤本 剛宏	有働 将人	重松 憲明
監事 (城南)	永田 明也	永末あづみ	村上 寛人	安達壮太郎	中尾 雄策
理事	安武由紀子	岩下 昌稔	岩下 昌稔	芥川 玲子	加藤 敏倫
	鎌田 信隆	堀 慎介	堀 慎介	齊藤 修	恒松 美鈴
	岩下 昌稔	平松 由圭	平松 由圭	平松 由圭	片山 博史
	堀 慎介				

～役員一覧（平成24年度～28年度）～

年度	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
会長	田中 秀実	田中 秀実	鬼塚 正文	鬼塚 正文	嘉悦 良吉
副会長 (城北)	松本 敏子	松本 敏子	赤星 浩一	赤星 浩一	池辺里恵子
副会長 (熊本)	淀川 豊輝	淀川 豊輝	江口 弥生	田代 典子	田代 典子
副会長 (城南)	鬼塚 正文	鬼塚 正文	嘉悦 良吉	嘉悦 良吉	宮原 和喜
代議員 (城北)	古家 千荷	西 泰将	田代 隆博	吉田もと子	荒木 弘香
	田代 隆博	田代 隆博	角田 千春	西國 詩織	宮里 志保
	二子石 務	森岡 真生	久永 大樹	山崎 詩織	中川 美穂
代議員 (熊本)	堺 恵美子	藤本 泰二	松田 幸美	宮本 康平	北原 朋美
	野内絵里香	木村 彰子	内田 三次	有働由佳子	児島 愛理
代議員 (城南)	永原 優美	園田 寿子	山本 紀子	富永 裕士	木村 彰子
	山本 純嘉	濱崎 豪	服崎 大翼	古賀 真実	嶋田 誠
	平井 紀光	長瀬 睦美	矢野 愛子	荒嶽 美桜	田中 元陽
	山崎 公貴	星子 雅彦	谷川 勝昭	轟 佳織	宮本 浩史
監事 (城北)	田上 恵	高田 英樹	川端 亨	水元 敬浩	堺 恵美子
監事 (熊本)	船越 賢二	安藤 拓雄	有働由佳子	津嶋ゆかり	井 由紀子
監事 (城南)	松田 庸伸	舟田 博之	小馬田郁子	松本 哲郎	野口 絢可
理事	園田桂一郎	豊永 祐樹	木村 彰子	豊永 祐樹	松田 幸美
	恒松 美鈴	真鍋 敏也	豊永 祐樹	滝口美紀子	豊永 祐樹
	片山 博史	片山 博史	真鍋 敏也	真鍋 敏也	田中 拓海



<歴代協会長>



熊本県公立学校事務職員協会70周年に寄せて

前田 高光

平成17～18年度会長

(熊本高等学校 在籍)

熊本県公立学校事務職員協会では70周年の記念すべき年を迎えられ、記念誌を発行されることに、敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

昭和22年3月に「学校教育法」が制定され、学校事務職員の学校への配置が明記されました。その後、学校事務職員協会が発足し、先輩学校事務職員等の御尽力により70年の歳月を経て、現在の協会の礎を築いていただきました。

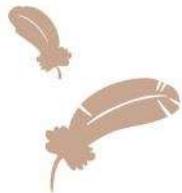
私事ですが、昭和50年4月に学校事務職員として採用され、義務制の学校に赴任しました。その当時、まだ、義務制の学校への配置は少なく、未配置の学校への赴任となりました。現在のような事前研修もなく、赴任当初は、何をしたらいいのか。どなたに聞けばいいのか。戸惑いの毎日でした。不安な日々を送っていたら、近隣の学校事務職員や先輩学校事務職員の助言・指導、管内事務職員会の研修等を受けながら、必死に職務を遂行したことが思い出されます。感謝の念でいっぱいです。また、当時は、義務制の学校事務職員の標準的職務内容が確立されず、学校、個人の力量、経験年数により様々で、学校事務職員の標準的職務内容の確立が課題で、取り組んでいたことを懐かしく思い出されます。

平成6年4月、高等学校に初めて異動し、心機一転、また、新たな気持ちで職務に取り組むことになりました。学校1人の学校事務職員から、複数(当時5人)の学校事務職員による学校事務運営と、不安の中での赴任でしたが、日々、遠慮なく活発な論議が出来る事務室の雰囲気は救われ、高等学校にも早く溶け込むことが出来、職務もマスターすることが出来ました。また、公立学校事務職員協会の春・秋等の研究会、地区ごとの研究会活動により、専門知識の充実と見聞を広めることが出来、義務制の学校事務運営とは違った職務を、どうにか全うすることが出来ました。

特に、平成15年・16年に副会長、17年・18年に会長、19年に九州協議会熊本大会事務局長として、5年間、協会運営に参画をさせていただいたことが、特に協会との関わりを印象深く思い出します。学校事務職員の皆様は勿論、当時の県教育委員会事務局及び公立高等学校長会の皆様の御理解と御協力により、スムーズな運営が出来、自分なりに責任を果たすことが出来たかと自負しています。在任中に、全国公立高等学校事務職員協会九州協議会熊本大会を熊本市民会館(当時)に於いて、「チャーリー永谷さんの特別講演」等、熊本色も出しながら開催することが出来ました。退職した今でも懐かしく思い出されます。

今後も教育環境は多様化し、学校事務職員には更なる高度の職務遂行能力が求められるなか、協会の果たす役割は増大すると思います。70周年の節目を迎えられ、先輩諸氏の御努力と御苦労の足跡を偲び、更なる協会の発展に取り組んでいただければ幸いです。

最後になりましたが、熊本県公立学校事務職員協会のますますの御発展と、協会員の皆様の御健勝並びに御活躍を、心から祈念申し上げます。



## 協会の思い出と提言を少々

坂本 弘史

平成20～21年度会長  
(熊本工業高等学校 在籍)

私が事務職員協会の副会長を拝命して、協会の仕事を始めたのが熊本工業高校の事務長時の平成18年6月でした。その後、平成20年6月から協会長を1年9ヶ月行いました。協会の仕事には、それまでほとんど携わったことがなかったので、不安なところもありましたが、協会の皆様の協力で無事に乗り切ることができました。協会長をまだ続けるつもりでしたが、平成21年度末の人事異動で教頭へと転出しました。行政の仕事から教育の仕事へと仕事の内容が大きく変わって大変でしたが、それを乗り切ることができたのは、事務職員協会の皆様との繋がりや楽しい思い出があったからです。

年に2回(春季・秋季)の研究会後の懇親会や夏季休業中のボウリング大会、本当に楽しかったのを思い出します。懇親会の二次会で盛り上がりすぎて酔っ払った事や、またその時に歌っていた若い歌手の歌を今でもよく歌っていますし、ボウリングで盛り上がったことも忘れられません。特に始球式で投げた一投がストライクだったこともありました。あの頃は、みんなが一つになっていたような気がします。おかげで、多くの若い先生方とも知り合うことができました。本県で行われた事務職員協会九州大会を成功裡に終了することができたのも、当時の役員の皆様の御協力があったからだと今でも感謝しています。

思い起こすと、事務長から教頭になって、「教頭から見た事務室」との題で、協会の研究修会で事務職員の皆様にお話したことを思い出します。6つの点でお話をしました。

- 一つ目が、「開かれた事務室であってほしい」
- 二つ目が、「コミュニケーション能力(対話力)をつけてほしい」
- 三つ目が、「事務室は学校の顔である」
- 四つ目が、「プロ意識を持って職員に指導できるようになってほしい」
- 五つ目が、「教育を語れる事務職員であってほしい」
- 最後に、「行動力のある事務室であってほしい」

という願いを込めて話をしましたが、結局は、職員や保護者及び地域の方々からも信頼される事務室であってほしいし、併せて信頼できる事務職員であってほしいとの思いからです。

また私は、私のモットーである「明るく・楽しく・元気よく」を常に考えて仕事をして、回りの先生方とコミュニケーションを取りながら、お互いに協力関係を作っていく、自分の仕事をやりやすくしました。

最後は、校長で定年を迎えましたが、事務職員であった時代が永く多くの経験をし、多くの人との出会いがあり、お世話になった方々を忘れることはできません。これからも「人との出会い」を大事にして、何事にも取り組んでいきたいと考えています。

最後になりますが、今後の事務職員協会のますますの発展を祈念するとともに、併せて協会の皆様の御健勝をお祈り申し上げます。

## 熊本県公立学校事務職員協会 70周年に寄せて

中村 知子

平成22～23年度会長  
(第一高等学校 在籍)

熊本県公立学校事務職員協会 70周年おめでとうございます

思い返してみますと、私が採用された昭和50年代は、女性事務職員の数が少なく、その育成に協会が深くかかわり御支援いただいたことが、思い出として一番心に残っています。当時は20数人の、ほんの一握りの女性事務職員でしたが、女性事務職員の視点を活かした研究活動の推進を図り、研究の充実を目指して、活動をされる女性の先輩事務職員の姿に刺激を受け、親睦を深めることができたことが、私が事務職員として歩むうえでの成長にも繋がり、今でも大変ありがたく思っています。

そして、第一高校在職中に、石原主任事務長が協会長に就任されるときに、理事の仕事を抑せつかり、協会を裏で支える仕事をさせていただき、本協会の学校事務に関する研究と研鑽に取り組まれる環境を大切にすることを意識し、考える機会をいただきました。

その後、教育委員会事務局に異動することとなり、協会とは距離を置くこととなりました。そして、10年後再び第一高校に勤務することになり、1年が経過した頃、私に協会長のお話が舞い込んできました。適任の方が多くおられるなか、微力な私でいいのかと困惑しましたが、優秀な協会役員の方々の支えを頼りに平成22、23年度の2年間、協会長を抑せつかりました。

当時も、学校を取り巻く社会環境が大きく、そして急激に変化しており高校授業料の無償化は平成22年4月1日から施行され、熊本県校務支援システムの導入などが実施された時期でもありました。全国的にみても地方財政の財源確保が難しく、定数削減など様々な改革が進む中、学校事務職員の将来への不安や、閉塞感などが話題にあがることが多い時代でもありました。

一方で、協会の研究活動は脈々と続いており、九州大会での研究発表者や全国大会の優秀研究発表者を囲み、お祝いの会を開くことができ、大変楽しい時間を過ごすことが出来たのは、嬉しい記憶として残り、九州各県の事務職員協会との連携を試み、秋季大会で鹿児島県、佐賀県からの研究発表が実施され、私も鹿児島県で講演をさせていたことは、良き思い出になりました。

また、昨年の震災では、自らも少なからず被害を受け、物的・心的にも御苦労されている中、職場である県内の学校の復旧・復興へ取り組まれ、児童・生徒が躍動し活気ある学校生活の姿に戻るよう、頑張ったおられる協会員の皆様の姿を垣間見、頭が下がる思いです。

さて、昭和23年に発足した本協会は、先輩方の学校事務に関する研究と研鑽に取り組まれた姿勢が、後に続く協会員を育成し、学校事務職員としての資質向上並びに能力の増進を図ってきたと考えます。

今後、研究活動の推進並びに活性化が行われ、協会員の絆が深まり、本協会が一層充実し発展いたしますことを、心からお祈りいたします。

平成23年7月  
「全国公立高等学  
校事務職員研究大  
会(京都大会)」の  
反省会



平成23年度  
「鹿児島県公立学校  
事務職員協会研究  
大会」にて講演



## 負けるな 「一人一人を大切に」



田中 秀実

平成24～25年度会長  
(第二高等学校 在籍)

協会のみなさん ますます御清祥の事とお喜び申し上げます。熊本県公立学校事務職員協会70周年心からお祝い申し上げます。また協会員の皆様方にも、心からお祝い申し上げます。

今年は9月下旬まで夏日が続き秋の訪れが遅かったのですが、心地よい風、山々の木々の色づきぐあいを見て「やっと秋が来たんだ。」と感じた方も多かったのではないのでしょうか。我が家の片隅でも彼岸花、金木犀が咲き秋の訪れを告げています。彼岸花はその華やかな・姿形で目を楽しませ、金木犀は地味な花ですが、優しい香りでこころを癒してくれます。個性あふれる花たちです。

そんな花々を見ながら、改めて自分に問うてみる。

「自分の個性は何か」「得意なことは」「人のために尽くしているか。」

「自分を高める努力をしているか」・・・・・・・・

あなた達自身はいかがですか。

しかし、いくら才能あふれた人でも、自分一人で勝手に突き進むことは出来ません。

あなた達は学校という組織・チームで動いています。

俯瞰的に職場を眺め、自分と向き合い、今すべきこと・やれることなど考え、意見を出し合い協力して、事に当たっていくことが大切です。

「個々の智恵、技が響き合う職場をつくろう」

きっと、素晴らしい画ができるはず。

一人一人を大切に作る。

若さ溢るるみなさんの、しなやかな感性に今後も期待しています。



## 繋ぐ

鬼塚 正文

平成26～27年度会長

(熊本工業高等学校 在籍)

熊本県公立学校事務職員協会の70周年をお祝い申し上げます。

また、今回寄稿させていただきありがとうございます。私は、平成26年度と平成27年度に協会長を勤めさせていただきました。この時の思い出は、平成27年度から本格的に準備を行った九州大会（第64回九州協議会研究大会熊本大会）の実施とその直前に襲った熊本地震でした。

まず、実行委員会の構成・組織は、前回の熊本大会の資料を参考に進めましたが、新たな問題として、3年再配置の異動がありました。平成25年度から始まった新たな採用形態、教育行政職・教育事務職の採用は、実行委員会の編成にも影響を与えました。九州大会の実施年度となる平成28年度に新採4年目を迎える人達は、全員が県立学校から行政や義務制への異動が予定されていたからです。次年度に県立学校から異動することが分かっている人を実行委員にお願いするのは思慮が足りないとし、新採3年目の人を除きました。さらに、2人配置校は、学校の負担を考慮し外させていただきました。この中に、是非やりたいという人もありましたが、参加者としてサポートをお願いしますと、我慢していただきました。平成27年度鹿児島大会の視察に始まり、常任委員会、実行委員会を重ね準備を進めました。同時に八代・水俣・芦北地区の皆さんには、平成28年度の全国大会徳島大会発表の準備という大役まで御苦労頂きました。平成28年3月末の定期異動を終え、行政異動等で抜けた実行委員の補充を行い、年度替わりの事務に翻弄されながらも、リハーサル等最後の準備に取りかかろうとしていた矢先、4月14日（木）に熊本地震前震、16日（土）に熊本地震本震が起きました。直前に襲った熊本地震、1年以上前に会場として押さえていた「くまもと森都心プラザホール」は使用不能となり、その他多くの施設も復旧の見通しができない状況でした。ホテル等の宿泊施設も間に合うのか。九州各県には参加申し込みの取りまとめの締め切り時期での、実施か中止か延期か、判断に迫られました。大多数の学校は被害を受け、職員も自宅を被災した中、学校は避難所としても使命を果たしました。そして安全対策、被害状況把握、応急復旧、学校再開へ向け奮闘している最中、その状況で実施できるのか。実施しても良い事なのか。九州各県の仲間も心配してくれている。全国から色々な支援や思いが届けられる。やらなくてはならない事か、やらなくてもいい事か。意見を交わし、実施できる会場を探し、期日を約1ヶ月遅らせて、7月5日（火）6日（水）に実施すると決定いたしました。それから全ての準備をやり直し、予定していた新

しい取り組みこそできませんでしたが、映画「うつくしいひと」の上映や、地震で被災した熊本城を間近で見てもらふ事もでき、無事役目を果たす事ができました。

参加者からは、この状況で大会を実施してくれた事に敬意を表する言葉や、励ましを沢山頂きました。そして、閉会式では全員のスタンディングオベーションで労をねぎらっていただきました。実行委員一人一人が、参加した全員が、やって良かったと達成感、充実感を得て涙した瞬間でした。大会後のアンケートには、熊本県の事務職員で良かった。熊本県の事務職員であった事を誇りに思う。との言葉がいくつもありました。昭和27年に、この九州大会の第1回大会を、熊本県で開催された先輩方の熱い気持ちを繋いだ瞬間でもあったと思えました。九州各県から、ウイークデーにもかかわらず、余震の心配もある中、集まってくれた参加者一人一人の気持ちが繋がったと感じました。次の平成29年度長崎大会では、熊本県で実施できなかった事を引き継ぎ、見事に気持ちを繋いでいただきました。前年度の鹿児島大会、8年前の平成20年度熊本大会から繋ぐことができました。次の長崎大会に繋ぎ、さらに8年後の平成36年度熊本大会へ繋げるものだと思います。何よりも、熊本県の協会員の気持ちを繋いだ大会であったと思えます。今後も、熊本県公立学校事務職員協会が、皆さんを繋ぎ続ける事を祈念いたします。

最後に、熊本大会に関わった皆さん、協力していただいた方々、九州の仲間、そして全国の仲間、本当にありがとうございました。皆様にお礼を申し上げて、終わりとさせていただきます。



## <現役各地区事務職員>

### 第一高校に赴任して

熊本県立第一高等学校  
事務職員 森 智志

事務職員協会70周年おめでとうございます。今回70周年という節目に寄稿の機会をいただき、大変うれしく思います。

第一高校は本年度創立114年目を迎える歴史のある学校です。事務職員協会の中にも、卒業生が多数いらっしゃると思います。そのような伝統校で働けることを誇りに思います。

私が担当している業務は、営繕・備品・旅費・給付金などです。新しく経験する業務がほとんどで、日々職場の諸先輩方に、御指導・助言をいただきながら、どうにか業務を進めています。また営繕業務においては、平成28年熊本地震により被害を受けた、校舎の復旧工事のため、建設業者と学校の調整役として、大変貴重な経験をさせていただいています。

4月に第一高校に赴任して、体育祭と文化祭（一高祭）を通して、第一高校のすばらしさを感じることができました。体育祭においては、全員の力を結集し、一致協力して物事に当たるという意味の、「戮力協心（りくりょくきょうしん）」というテーマのもと、生徒一人一人が全力で取り組む姿に感動しました。どの競技にも迫力があり高校生らしい、体育祭であったと思います。

文化祭においては、「梅花爛漫（ばいからんまん）～創造しよう 文化の華～」というテーマのもと、自分の想像をはるかに上回る発表の数々でした。例えば合唱部の歌声や、現代の曲をリズムカルに奏でる、邦楽部による琴の演奏・堂々とした演技がかっこ良かった演劇部など、すべてが想像を超えていました。生徒たちの日々の成果を体感できるものばかりで、非常に感動しました。既に来年の一高祭が楽しみになっています。

伝統と魅力にあふれる第一高校で、周囲の方への感謝を忘れず今後も業務に邁進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いします。



## 「エレベーターに乗ったなら」



熊本県立湧心館高等学校（通信制）

事務職員 星子 雅彦

エレベーターに乗ったなら、行き先よりも閉まるボタンを先に押したい。動物は全般的に苦手だが、人間だけはこよなく愛す星子と申します。寸暇を惜しんで、自らの人生を輝くものとすべく食欲に生きています。人との出会いを大切にし、世にある沢山の美しいものと触れ合うことが人生のテーマです。

70周年を迎える事務職員協会。ちょうど採用されて10年目を迎える私は、この10年振り返るにあたっての適任者ではないかという思いに勝手に至り、そんな経緯で喜んで寄稿させていただきます。私が日頃考えていること、取り組んでいることを執筆いたします。

「子供の人生に影響を与えることの出来る大人になりたい」と学校現場での生業を選択しました。学校事務職員は、校種や地域は違えども、各々のスキルと熱情とによって、幅広く活躍の出来るポジションであると確信しています。その中でも、生徒といかにして関わるのかにより、日々の職務に対する姿勢や意欲が変化するものだと実感しています。

私は、生徒と接するときいつも心掛けていることがあります。それは、教員とは違った大人の立場に立ち、社会の一面を見せるということです。持論になるやもしれませんが、先生であって先生でない、そんな立ち位置の大人と接することが、これから社会へ飛び立っていく彼らにとって、生きる力を育むために必要だと考えています。事務室のお兄さんの一言が、人生の格言となるやもしれません。自身の多趣味を生かし、これまで色々なことをやってきました。文化祭で生徒とバンドを組んで、観客を右へ左へ動かしたり、サッカー部の合宿で、毎食一人5合ノルマの釜の飯を、共に歯を食いしばって頬張ったり、街中で卒業生に会った日には諭吉がいなくなったり・・・人事異動の際に、寄せ書きのユニホームや県外にいるはずの卒業生から花束をもらったことは、涙腺崩壊のよき思い出となっています。そして、そんな素晴らしい出会いのあるこの環境こそが、私たち学校事務の志事の間であると感じています。

事務職員協会での活動を通して、沢山の仲間に出会えたこと。自己研磨する機会を与えてもらったこと。その中で得た様々な繋がりが、今となっては、私の財産となっています。思い起こせば、当たり前前に協会員となり、言われるがまま研究会とやらに参加し、ボウリング大会（厚生事業）なんて何で行かなきゃいけないの。と無垢に考えていた10年前の私がいました。協会員になったからには、元を取らんといかん。食欲に関わっていかうと決心した6年前。先輩方から受け継ぐこの会を、熊本の地で途絶えさせてはいかんと躍起になった、去年の九州大会。昨今、学校事務職員の採用形態が大きく変化し、県教委・県立・小中学校での採用一本化となり、今一度、協会の真価が問われる岐路にあります。衰退させるのか、さらなる発展を遂げるのか、会員一人一人の協会に対する関わりがそれを決めるのだと。その中核を担っていきたくいと、勝手に心に決めた70周年の夏よし、100周年は、大核(?)になろう。

## 熊本県公立学校事務職員協会70周年に寄せて

熊本県立玉名高等学校附属中学校

事務主査 吉岡 三紀子



はじめに、私が事務職員になってから、20年ほどが経ちます。あっという間の日々でした。最初の研究発表との出会いは初任の時から数えてみますと、4回経験したことになります。初任校のときの内容は何をしたのか、申し訳ありませんが、あまり覚えていません。次が熊本市内の学校に勤務していたとき木曜会で、みなさんも参考に見られていた方もいらっしゃるかと思いますが、緑の冊子で「服務の手引き」の再編の時に携わりました。自分の担当は、特別休暇の部分で、その当時の熊本県の最新の条例等と照らし合わせたり、以前の手引きの改正部分を校正したり、加筆・変更することが主なものでした。

それから、また異動をしたところで2回経験をさせていただくことができました。アスベスト除去に関することと就学支援事務のことに関するものでした。

まさに、その時代に話題になり調査があったり、または、新しく導入されたものを選んで、研究発表のテーマにしていたかと思います。

その当時は、率直に言うと、普段の事務室の仕事で忙しい毎日の中で、研究発表のことをやることに負担を感じていました。しかし加わって、作業をするうちに感じたことがありました。それは、その地区の県立学校の職員が集まり、共通のテーマをもとに協力して、いろんな調べものやアンケートを行い、内容を集約し、発表を行うということは、対人コミュニケーション、事務職員のスキルアップの向上の面で、とても役に立つということです。メンバーの中には、若い人もいればベテランの人もいて、なおかつ高校の業種も違えば支援学校もあります。その中で、いろんな議論をして、いろんな意見を出し合い、紆余曲折ありながら、1つの作品をつくりあげていくということは、なかなかある機会ではありません。研究発表が終わった後も、分からないことをお互いに尋ねたり、尋ねられたりと、そのような輪も広がっていきます。日頃の業務も、PCと向いあっていることが多い中で、このような場はとても大切な部分ではないかと思います。同じ事務職員でも、こんな考え方があるんだとか、自分にはない発想やアイデアが出てきたりと、いろんな意味で自分が刺激を受けたことはいまでもありません。そこで得たものを、少しでも自分が勤務している事務室で還元できたらいいのではないかと思います。

研究発表のことばかり書いてしまいましたが、これからも協会のますますの御発展と御多幸を祈りつつ、微力ながら協会の一員として、活動に携わっていきたいと思います。

## 熊本県公立学校事務職員協会 70周年に寄せて

熊本県立ひのくに高等支援学校

事務職員 西國 詩織



このたびは、熊本県公立学校事務職員協会 70周年の記念誌に寄稿するという大役を仰せつかり、大変恐縮しております。何かの間違ひでは、という疑念は拭えませんが、一事務職員から見た事務職員協会について、書かせていただきます。

早いもので初任の年、宇城・上益城地区が担当の「協会だより」に、自己紹介と学校紹介を寄稿してから8年が経ちました。その間、春季や秋季の研究会を通して、業務内容の理解を深めることはもちろん、諸先輩方のお話から事務職員としての在り方や心構えを学んだり、協会を通してできた、ヨコの繋がりに支えられたりしてきました。

ただ恩恵を受けるだけだった私が、平成27年度の菊池・山鹿地区の代議員になりました。初めてのことで戸惑うことも多く、御迷惑をおかけしましたが、皆様の御協力のおかげで、地区研修会を開催し、協会だよりを出すことが出来ました。特に協会だよりの原稿依頼をした時期が、県内に大きな被害を出した台風の事後対応の時期と重なり、大変心苦しかったのですが、各校からバラエティ豊かな原稿を寄せていただき、とても有り難かったです。

そして、平成28年度の九州大会に実行委員の一人として関わりました。私が出来たことは本当に少なかったですが、熊本地震の後、それでも熊本で開催するのだという、当時の鬼塚会長を中心とした役員の方々の情熱や、奮闘を間近で見られたことは、何物にも代えがたい経験だったなと感じています。特に、鬼塚会長の九州大会は熊本から始まったのだという、誇りがこもった開会の言葉と、最後のスタンディングオベーションは、今思い出しても鳥肌が立ちそうなくらい、感動的でした。

代議員や実行委員のお話が来たとき、私が出来るか不安でしたし、実際、私自身は微力だったと思いますが、この1年半は貴重なものになりました。役員の方々の御苦勞を知るとともに、頑張っている方々から、とても刺激を受けましたし、目の前のことに追われがちな日々の業務とは、また違った充実感や達成感を味わえました。何よりそこで知り合った人たちは、今後の財産だと思います。

事務職員協会の百周年のとき、私はちょうど還暦を迎えます。30年後は想像が追いつかないくらい、色々なことが変わってしまっていると思いますが、この70年間様々な方が繋いでこられた想いは、受け継がれていくよう願っています。その様を無事見届けられるよう、私自身も頑張っていきたいです。



## 熊本県公立学校事務職員協会 70周年に寄せて

熊本県立翔陽高等学校

事務職員 永田 翔也

はじめまして。採用2年目、翔陽高校の永田と申します。

この度は、熊本県公立学校事務職員協会70周年おめでとうございます。今回、70周年記念誌に寄稿させていただくことになりました。寄稿の依頼が来たときに、採用2年目の私なんかを書いていいものなのであろうかと、ものすごく恐縮している反面、光栄な気持ちを持ち合わせながら執筆しております。

私は、事務職員協会が主催している研究会には、毎回参加させていただいています。研究会の内容はとても勉強になることばかりであり、他校の事務職員の方とも交流ができて、いつも刺激を受けています。

また、今年度は、長崎で開催された事務職員協会の九州大会にも参加させていただきました。九州各県の事務職員協会の研究発表を聞くことができ、同じ九州でも、県ごとに様々な特色があるということを知ることができました。それと同時に、事務職員という仕事の奥深さも知ることができ、私自身非常に刺激を受けました。また、長崎から帰る際には、おいしいカステラを買うことができたので、さらに満足でした。来年度の九州大会も是非参加したいと思います。

さて、今年度で事務職員2年目となった私ですが、まだまだ不慣れな部分や、わからないことばかりで事務長先生をはじめ、2人の事務主査の先生に助けられながら日々を過ごしています。来年度はいよいよ3年目、節目の年となります。3年目を終えると翔陽高校から異動になるかと思うので、残りの1年ちょっとで学べることを学んで、しっかりと成長していきたいと思えます。

まとまりのない文章となりましたが、私からの寄稿とさせていただきます。

最後に、無茶ブリと心得たうえで、翔陽高校事務職員メンバーから70周年に関して一言ずつもらいたいと思えます。

廣友事務長「70周年おめでとうございます。初任の頃から数十年、事務職員協会には大変お世話になりました。今後のますますの御発展を祈念いたします。」

森 先生「事務職員協会とともに20年程(?)歩みを共にしましたが、70年という歴史と重みを感じます。時代に応じて、ますますの発展を期待します。」

小森田先生「協会による勉強会はいつも勉強になります。今後もよろしく願います。」

どんぐりん



## 公立学校事務職員協会創立70周年に寄せて

熊本県立八代農業高等学校泉分校

主任事務職員 服崎 大翼

この度は、公立学校事務職員協会創立70周年を迎えられて、心からお祝い申し上げます。

私が、学校事務職員に採用されたのが平成17年4月、それから12年が過ぎました。初任の松橋支援学校をはじめに、荅洋高校、八代東高校、そして現在の泉分校と、多くの生徒・先生方と仕事をさせてもらい、いろいろなことを経験することができました。あることは懐かしかったり、あるいはもっとできたのではと、後悔が残る事柄もたくさんあります。そのような経験を活かしながら、泉分校で仕事をしています。そんな分校での様子を皆さんにお伝えしたいと思います。

### 【分校の風景】

泉分校は、「小さな学校で大きな学び」をテーマとして、平成26年度に創立60周年を迎え、さらに今年度、グリーンライフ科に学科改編して20周年を迎えました。分校は周りを山に囲まれ、学校裏には川が流れ、野生の鹿やイノシシを目撃することも、日常の風景となっています。

そんな学校ですが、全校生徒55人の大半が泉町外の出身者で、毎日1時間以上かけて登校する生徒がほとんど（自転車で2時間かけて登校する生徒もいます。）です。生徒数が少ないため、生徒と職員の距離が近くアットホームな雰囲気、穏やかな空気が流れる学校です。

また、学校行事等では職員数が14人と少ないため、部活動の顧問や体育祭への参加、生徒の進学面接指導等、駅前での登校指導等、他の学校でできない経験もさせてもらっています。授業では、山菜を収穫し天ぷらにして食べたり、ヤマメ釣りをしたり、マウンテンバイクの実習があったり、時間外総合実習でキャンプに行ったりと、私たち大人が憧れるような授業が、日々展開されています。

事務職員の仕事は、分校の事務全般を始め、後援会会計・総務部と多くの事務処理があり、大変だと思うことも多々あります。しかし、生徒と日々接することができて、楽しみながら仕事ができ、泉分校に来て良かったと思っています。

これから先、紅葉のシーズンとなり五家荘では紅葉祭も行われます。近くを通られる際は、是非泉分校に遊びに来てください。

協会創立70周年を迎え、この先本協会が更に発展し、会員の資質向上・相互のつながりの一助となれるよう、微力ながら御協力していきたいと思っております。





## 2つの節目を迎えて

熊本県立多良木高等学校  
事務職員 宮原 雄翔

この度は、熊本県公立学校事務職員協会が70周年を迎えられますことに対し、心からお祝い申し上げます。若輩の身で大変恐縮ではありますが、寄稿依頼をいただきましたので、一言お祝いを述べさせていただきます。

早いもので採用5年目となりました。平成25年に教育行政職として採用され、初任の球磨工業高校で3年、現在の多良木高校で2年目の勤務となります。

振り返ると、歳月の経過があつという間に感じられるのと同時に、日々沢山の方々に支えてもらってきたことを実感します。学校内は勿論のこと、事務職員協会においては、研究会等を通じて知り合った先生方に、多くの助けや励ましをいただけてきました。

実働的な面では、昨年度は球磨・人吉地区が研究発表の担当地区だったこともあり、昨年10月の県内秋季大会と、今年6月の長崎での九州大会の発表に関わらせていただきました。私個人としては直接発表する立場にはありませんでしたが、初めての研究発表への取り組みを通じ、貴重な経験をさせていただきました。人吉から長崎県佐世保市までの長い道のりを、高速バスで乗り継いで行き、雨の中、研究発表メンバーの皆で昼食の店を探し、長崎で最初に食べた佐世保バーガーも良い思い出です。

さて、せっかくなのでこの場をお借りして、多良木高校について少し紹介したいと思います。本校は大正11年に創設され、今年で創立95年を迎える歴史ある学校ですが、県立学校の再編整備により、残念ながら平成31年3月をもって閉校が決定しています。実は、多良木高校は私の母校で、高校卒業後からちょうど10年の時を経て、職員としての立場で母校へ帰ってきたこととなります。閉校を迎えるタイミングでの異動とは言え、まさか母校勤務が決定するとは思わず、内示発表の時は嬉しさよりも驚きが勝っていたように思います。

また、めぐり合わせも面白いもので、昨年同勤させていただいた事務長先生は、私の高校在校時に事務職員として御勤務され、現在の事務長先生は、私の中学校在校時に事務職員として御勤務されており、不思議な縁を感じています。

残すところ1年と約半年、在校生も2・3学年生のみとなり、徐々に閉校が現実的なものとして見えはじめていますが、野球部の夏の大会でのベスト8入りや陸上部のインターハイ出場など、まだまだ生徒たちは頑張りを見せてくれています。

事務室は事務長と事務職員の計2人配置で、多忙さを感じることもありますが、母校の最後を見守ることができる立場にいることを嬉しく思います。とは言え、有終の美を飾ることができるかどうかは、これからにかかっていますので、「本腰を入れて閉校へ向けて業務に取りかかっているかなければ!」、と本稿を考えながら、決意を新たにしているところです。

多良木高校はラストランの時期に入りますが、事務職員協会はこれからも長い歴史を作っていくことと思います。末筆ながら、本事務職員協会の一層の御発展と、協会員皆様方の御活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

あっという間に今年で採用3年目になりました。まだまだ勉強の日です。事務職員協会の研修会等を通してこれからも成長していきたいと思っています。

野球好きの親に付けられたこの名前は、プロ野球楽天球団の元監督と同姓同名（正確には名前の漢字は違いますが）ですが、親の期待に応え野球をする…こともなく現在に至っています。天草は初めてなので早く慣れようと思っています。

70周年ということで、戦後の混乱期にこの協会を発足させられた先輩のエネルギーに今回改めて畏敬の念を感じました。また、その貴重な歴史の1ページを私たちが担うことができる幸せも感じています。是非、後輩にもそのバトンを引き継いでいきたいと心意気新たにしております。熊本県公立学校事務職員協会は永遠に不滅です！

臨探として長くお世話になり、天草地区でも1位2位を争う!?勤務年数となう!?つつあります。今更にも末永くよろしくをお願いします。

協会には各分野の研究発表や、サービス、人事の手引きの作成など、実務に役立つ活動をしていただき大変感謝しております。今後もますますの発展をお祈りいたします。

今年度、初の異動を経験して業務引継ぎの大変さや新所属での業務の違いに、ただ驚き戸惑うことばかりであった。学校に置き換えると新学期を迎える子どもたちは、更に大きな負担を感じるのではないか。その不安や負担を軽減できる存在が先生であり、先生の教育環境整備等に協力できるのが事務職員である。先生を通じて、子どもたちの楽しい学校生活に還元できたら嬉しく思う。

この歴史の1/3程度を、ときに近くで、ときに離れて、かわらせていただきました。この間、幾度となく協会について考えることが深かったです。協会って奥が深いです。70年と聞いて更に奥深さを感じます。発足当時から現在に至るまで 協会運営にご尽力された先生方に感謝申

事務職員協会の研修やポウリングなどの活動に参加して色々な先生方と知り合うことができました。

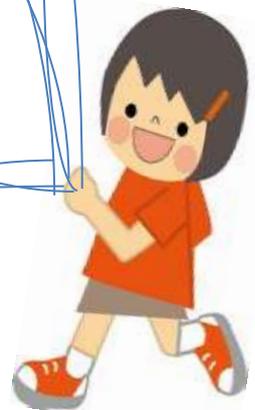
毎年開催されている協会主催の事務職員研究会は、内容がとても充実しており、私にとって有意義な勉強の機会となっています。また、協会員の皆様と意見交換をすることで、仕事に対するモチベーションアップにもつながっています。

事務職員協会では、先輩事務職員の方々と知り合うきっかけの場であり、勉強の場であり、自分を見直す場として、貴重な経験をさせていただいています。皆さんにとってもそういう場になるように、協力していきたいと思っています。

キョウカイ？ 協会！ ナナジュウネン？ 70年！

天草地区勇志メンバー

熊本県公立学校事務職員協会70周年おめでとうございます。天草地区は、素敵な職員が多く、勇志メンバーによる1ページにしてみました。誰の寄稿文なのか、思い浮かべながら読んでいただくと嬉しいです。



## 第69回全国公立高等学校事務職員研究大会（徳島大会）発表者から

【熊本県教育庁教育総務局文化課 主任主事 松本 哲郎】  
採用13年目（前 熊本県立水俣高等学校）



平成28年8月に徳島県で行われました第69回全国公立高等学校事務職員研究大会で、八代・芦北・水俣地区県立学校事務職員研究グループが研究発表をさせていただきました。様々な御支援ありがとうございました。

平成26年度後半から準備を始めて、平成27年度に県の秋季研究会で研究発表を行う等、長い道のりでしたが、他校の事務職員と意見を交わすことで、つながりができて、普段の仕事でも活かすことができました。

研究発表のテーマは、**学校事務職員の『絆』**でした。学校事務職から教育行政（事務）職に採用職種が変更され、人事交流が活発になる等、経験豊富な事務長・事務職員が少なくなっていくことが予想される中で、学校事務職員として仕事で心がけていること等を、各学校からいただいたアンケートの回答をもとに作成しました。

また、チーム学校という言葉が聞かれるようになり、学校事務職員の役割が変化していくことが予想される中で、事務室がチームとなって仕事に取り組めるように「GJ Work Note」を作成しました。

時代が変わっても、大切なものは変わらないはずで、学校事務職員としての思いを発表する機会をいただいて、本当に有り難かったな、という思いです。

【玉名市立大浜小学校 事務職員 松永 朋美】  
採用4年目（前 熊本県立八代工業高等学校）



玉名市立大浜小学校の松永と申します。

昨年度までは八代工業高等学校に勤務しておりました。この初任3年間の中で、八代・芦北・水俣地区研究グループとして、「**学校事務職員の『絆』 GJ Work Note ～後輩へ贈る仕事術～**」をテーマに、研究発表に関わらせていただきました。

そして、昨年は全国公立高等学校事務職員研究大会（徳島大会）という場で発表し、受賞することができました。今年の全国大会（石川大会）で表彰式にも参加させていただき、とても貴重な体験をさせていただきました。

この研究発表を進めていく中で、たくさんのことを学びました。日常業務が忙しい中でも、時間を見つけ、研究発表の準備に取り組まれる先輩方の姿を見て、こんな風に仕事を進められる職員になりたいと感じました。私自身、この研究発表で先輩方の「仕事術」を間近で学ぶことができました。

この約3年間で経験したことは、私の中でとても大きな財産となっています。この経験を活かし、今後は自分が後輩に仕事術を贈れるような職員になっていきたいと思っています。

【熊本県教育庁教育政策課 主任主事 田中 拓海】  
採用8年目 （前 熊本県立八代工業高等学校）



最後に、教育政策課 田中 拓海 と申します！

義務制（上天草市立大道中学校・龍ヶ岳中学校）3年、県立学校（県立八代工業高等学校）4年を経験し、現在は、行政1年目（教育政策課）で教育庁の広報業務（主に県教育委員会ホームページや各報道機関への情報提供、県民の方からの質問の窓口、広報誌の作成、統計事務等）を担当しております。

今回、熊本県公立学校事務職員協会が70周年を迎え、そのような中、記念誌へ寄稿する機会をいただき、とてもうれしく思っています。

第69回全国公立高等学校事務職員研究大会（徳島大会）は、八代・芦北・水俣地区の研究発表研究員の皆さんと一緒に仕事ができただからこそ、最後まで走り抜けることが出来ました。きついこともありましたが、今思うと、先輩、後輩との『絆』を感じる事が出来、とても楽しかった思い出です！

今後、義務・県立学校・行政の交流・復興事務等できつく感じる事があってもかもしれませんが、多くの人と交流することで『絆』を結ぶことができ、復興業務を行うことで、地域とのつながりを強いものにできると思います。

自分自身も現在の業務を一生懸命頑張り、ステップアップしていきたいと思えます。また、県立学校に戻った時は、3人とも仲間に入れていただければ嬉しいです！よろしくお願いします！

平成28年度全国公立高等学校事務職員研究大会（徳島大会）での写真です！



## <協会副会長・理事>



「安心すんな！ 心配すんな！」



副会長 宮原 和喜  
(済々黌高等学校)

「安心すんな！心配すんな！」これは、熱しやすく、冷めやすい。何をするにも、慎重になりすぎて、前に進まない。事が終われば、安心してすぐ忘れる。そんな新人だった頃の私によく言ってくれさせた、初任校の事務長先生の言葉である。私にとっては、仕事のイロハを教えていただいた方であり、人生の師である。時には厳しく指導していただいたが、とても温かい人であった。何度も家に遊びに行き、泊まらせてもらった。学校の運動会では、奥様の手料理が並んだ。本当に美味しかった。

あれから、34年経った。事務長となって12年。足下にも及ばない。

特に、新採にとっては、最初の学校が一番思い出に残る。仕事は、きつかったけど、とっても良かったと思ってもらいたい。そのように、接しているつもりだが、なかなか、そうはいかない。

そんな私が、事務職員協会の役を受けて2年目である。学校のこともうまくできないのに、協会のことのできるのかと自問自答の日々である。偉そうなことは言えない。ただ、協会は、事務職員みんなの会である。みんな（仲間）のために何ができるか。何をすれば、みんな（仲間）の役に立つか。

採用形態が教育行政職となり、県立学校と義務制との異動も頻繁になってきた。それぞれの組織をどのようにしていくべきか。みんな（仲間）のために、どのようにするのが一番よいか。無い知恵を絞り出している。一人で考える訳ではない、みんなで考える。「安心すんな！心配すんな！」である。

「人には春風をもって接し、己には秋霜を持って臨む。」

「人の話をよく聞く事、神は二つの耳と一つの口を与えた。」

これは、昨年の秋の大会でも紹介した。冒頭の事務長先生が作られた「職務に対する心構え」は、私のバイブルである。

いまでも、たまに、遊びに行く。事務長会の現会長さんと。手を合わせて報告する。「まだまだ全然だめです、見守りください」と。そして、奥様の手料理を御馳走になり、帰ってくる。

若い仲間達に、こんな思いを起こさせるような、そんな人になりたい。

「子は親の鑑、生徒は担任の鑑、職員は校長の鑑、事務室は事務長の鑑」

## 協会と関わって“再び”

副会長 赤星 浩一  
(八代高等学校・八代中学校)

熊本県公立学校事務職員協会創立70周年おめでとうございます。これまで協会の運営に携わられた方々、また、それを支えて来られた皆様に深く敬意を表します。

私は、現在城南地区の副会長を仰せつかっておりますが、平成26年度から平成27年度にかけて城北地区の副会長を仰せつかっておりました。協会活動の思い出と言えば、昨年行われました第64回全国公立高等学校事務職員協会九州協議会研究大会熊本大会を抜きには語れません。その当時、協会活動に関わった先生方は皆そうだと思います。熊本大会を開催するにあたり、研究大会視察や引継会等で3回鹿児島県を訪れました。鹿児島県の先生方からは温かいおもてなしを受けましたが、3回とも雨にたたられました。雨天の中で御紹介いただいたラーメン屋を探し当て、冷えた体を温めてくれたラーメンのおいしさは今でも忘れません。〇〇トロラーメンというお店です。皆様、鹿児島に行かれた際は、是非お立ち寄りされることをおすすめします。チャーシューがとても美味しかったです。

話が少しそれましたが、熊本大会開催のために、1年前から準備委員会や実行委員会を立ち上げ進められました。私も総務部の担当ということで、要項の作成や功労者表彰等の準備、来賓対応の準備など総務部の先生方と協力して、準備を着々と進めていました。総務部の業務は、大会当日をいかにスムーズに運営できるかが問われる、事前の準備が主たる業務でした。準備がほぼ整ったところで、4月の熊本地震により大会の開催さえ危ぶまれる事態に陥りました。開催をどうするか決定する場面でも、常任委員の考えも一致せず、不安の中で延期開催を決定する状況でした。私の中では中止の選択肢は無く、これまで御苦労いただいた先生方の努力を無にしてはいけない、各県でこの大会に向けて準備を進めてこられた先生方の御苦労も考えると中止にするという選択は最善の方法ではないと考えていました。さらに、これまで脈々と引き継がれてきた歴史を、閉ざす訳にはいかないという、思いもありました。ただ、できあがったものをもう一度やり直すとなると、しかも短期間で修正を試みることの労力は、並大抵ではないという思いもありました。ある先輩事務長先生からは、「こんな時にやるべきでは無い」との御意見もいただきましたし、やめることの勇気も必要ではありますが、やめることにより失うことの大さを考えると、前述のように中止の選択肢はなかったのです。大変な苦労を実行委員の皆さんに強いることにはなりましたが、結果的に各県の皆様から賞賛のお言葉をいただき、閉会の際にはスタンディングオベーションをいただいた時には、目頭が熱くなる思いをしました。鬼塚前会長も責任者として、その思いも一入だったことだと思います。

今年協会も70周年を迎え、これからさらに、100年200年と歴史を作って行かれることを節に期待しますとともに、協会員の皆様の御活躍をお祈りいたします。

最後になりますが、昨今、義務制との交流が盛んになってきています。同じ事務職員同士県立学校と義務制との垣根を越えた交流が、必要不可欠な時代に入ってきていると思います。事務職員協会の先生方と学校事務研究協議会の先生方の絆が、更に深まるよう、お互いに協力し合いながら、研究会等が進めていければと考えています。



## 道のり

副会長 池辺 里恵子  
(菊池農業高等学校)

現在、副会長という役を頂いて、事務職員協会の仕事に携わっています。若いころは、会長や副会長というと雲の上の方々だと思っていたのですが、もういつの間にかそういう年齢になったのだと、しみじみ感じます。と同時に、これまでの道のりを、どう歩いてきたのかと振り返ると、山あり谷ありで、よく頑張ってきたなというのが本音です。誰だって、大きな壁にぶつかることがありますよね。

「てふてふが一匹 韃靼海峡を渡って行った。」 安西冬衛の詩です。

小さいころから、いつも天草の海で父と舟釣りをしていたのですが、何キロもある広々とした海の上で、小さな蝶を見ることがありました。大海原の上を一匹の蝶が海の風に揺られながら、ひらひらと飛んでいく。風に叩きつけられるんじゃないか、魚に食べられちゃうんじゃないかと、心配する私をよそに、蝶はひらひらと飛んでいき視界から消えます。きっと、長い道のりを最後の力を振り絞って、岸までたどり着いたはず。といつも念じていました。

折しも、今、農業高校で仕事をしています。生徒たちの命と向き合う姿には、いつも感動させられます。脱臼して動けなくなった牛を、7人くらいで囲み、何時間も何時間もさすったり、水を飲ませたりしていました。明日は出荷されます。雛から大事に育てた鶏を、授業で解体し食します。一つの命はとても尊いと勉強しました。机の上の仕事をしているだけでは、自分のスキルは磨けないとつくづく思います。

過去を振り返ってクヨクヨしても、結果は変わらない。未来を心配しても仕方がない。いまを大事にして精いっぱい生きる。と言うのが私のモットーです。

長い道のりを振り返った時、周りに感謝しながら、今の自分をほめてあげましょう。



## その前の熊本大会

理事 中尾 雄策  
(熊本高等学校)



記念誌の発行にあたり、この10年を振り返ってみました。私自身、平成19年度の秋季大会で研究発表を行い、(その時は「県大会止まり」ということで、自ら進んで立候補したのですが、状況が変わり、)翌、平成20年度の九州大会(熊本大会)で発表を行うことになりました。当時、私は牛深高校に勤務しており、開催県の発表者でありながら、九州各県の方々よりも時間をかけてはるばる、土砂降りの雨の中、熊本市民会館に馳せ参じたことを思い出します。

開催県ということで、発表順は最後でした。他県の方が発表されている間、ホールの外で待機していたのですが、時間が迫るにつれ、今までに経験したことが無いような緊張感に襲われました。吐き気・いや違う・、「何かが口から出てきそうだ・ウツ」。そう、「心臓が口から飛び出そうな」というのは諺ではなく、本当のことなのだ、このとき初めて気づきました(※本来の意味は緊張ではありません)。あれから10年近く経ちますが、あれ程の緊張の経験はありません。しかし、人生に一度くらいは、その様な経験をするのもいいかも知れません。若手事務職員の皆様、発表をするなら早い方がいいですよ(笑)。

## 今日までを振り返って そしてこれから先へ

理事 松田 幸美  
(熊本支援学校)



平成28年度から協会理事をしております、熊本支援学校の松田と申します。

私が採用された平成8年から今日までを振り返ると、学校事務職員を取り巻く環境は大きく変化しました。例えば、事務処理における財務システム・庶務事務システム等が導入され、事務処理の環境も採用時から比べたら、考えられないくらいの変化が起きています。

また、学校事務職も採用形態が、教育行政職又は教育事務職となり、事務職員協会の運営も難しいものになっていくと思われませんが、諸先輩方から教えていただいた事務職員としての心得等は、何物にも変えられない財産となっています。これらの財産を引き継ぎ、次の若い世代の方に事務職員協会を盛り上げていてもらえるようにするのも、私たちの世代に託された役目なのかと感じています。

私も理事として微力ながら、協会の仕事に携われることを光栄に思いつつ、業務を全うしていきたいです。

## 「すべては協会員のために」

理事 豊永 祐樹  
(熊本工業高等学校)



協会の理事を平成25年度から務めさせていただき、今年度で5年目になりました。「すべては協会員のため」という、強い気持ちで業務を行っています。本業と忙しい時期が重なったり、いろいろなことがあり辛いときもありますが、仲間たちのため！と思うと、弱気な自分を忘れることができます。そして仲間たちが救ってくれます。

理事を依頼された際、当時の会長から「若手を頼むよ。」と言われました。若い先生方が気兼ねなく、参加しやすい協会を目指してやってきたつもりです。平日だけでなく、土日のイベント参加や勉強会など、同じ職種の仲間と交流することで、悩みが一つでも解消できるような企画を行ってきました。今後も継続していきます。



最近では、私が採用された時に比べると、信じられないほど人事交流（義務制→県立等）が盛んになり、特に若い先生方は不安をお持ちのことだと思います。また、女性の先生方、特に育休から復帰されるお母さん先生方も、毎年何かが変わるシステム等に苦慮されていると思います。協会がすべての不安や悩みを解消することはできませんが、一つでも何か解決でき、その一助になればと思っています。



昭和23年に発足された本協会。戦後間もない当時は、どれだけの苦労があったかと思うと、想像もできません。そして、継承されてきた70年。多くの先輩方の想いの詰まった歴史ある本協会を、未来の後輩たちのために、大事にしていきたいと思っています。

平成29年度 役員一同



## 編集後記



事務職員協会が今年 70 周年を迎えるにあたり、何か「ミニ」記念誌を発行しよう、という話が 9 月に出て、急ピッチで資料を集めました。思うように資料が見当たらない中、私たちからの不意な連絡に御協力いただいた各学校のみなさま、有難うございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、今回多くの方から寄稿をいただき、歴代の協会長の皆様の文章を読んでは、当時の溢れんばかりの思いが伝わってきて胸が熱くなりました。また、現役各地区の事務職員の方も、快く寄稿を引き受けていただき感謝いたします。

また、ここ 10 年間の研究発表をまとめていると、「あ～、あの日あの時あの場所であの人がこんな発表したな～」と懐かしく思い出されたところです。以前に研究発表されたもので資料があるものは、協会ホームページに今後随時掲載していきたいと思っています。

次の 10 年で、私たちの業務や形態はどのように様変わりするのでしょうか。想像もできませんが、諸先輩方の「想い」を受け継ぎ、今後も研鑽を積んでいきたいと思っています。 事業部 池辺、中尾、服部、後藤、高橋

### 平成 29 年度 熊本県公立学校事務職員協会役員

役 職	学校名	氏 名
会 長	第二高等学校	嘉悦 良吉
副会長 (城北)	菊池農業高等学校	池辺里恵子
副会長 (熊本)	済々黌高等学校	宮原 和喜
副会長 (城南)	八代高等学校	赤星 浩一
代議員 (城北)	玉名工業高等学校	野内絵里香
	鹿本高等学校	服部雄一郎
	阿蘇中央高等学校	林 良介
代議員 (熊本)	熊本北高等学校	坂口 沙采
	盲学校	大窪 美紀
代議員 (城南)	御船高等学校	谷川 勝昭
	八代工業高等学校	後藤 将師
	人吉高等学校	高橋 遼
	天草拓心高等学校	野口 絢可
監 事	北稜高等学校	竹尾 知里
	熊本西高等学校	高橋 幸恵
	南稜高等学校	小馬田 裕
理 事	熊本高等学校	中尾 雄策
	熊本支援学校	松田 幸美
	熊本工業高等学校	豊永 祐樹





2017

*The 70th Anniversary*



2008



2016



頑張ろう熊本! 負けんばい熊本!  
支え合おう九州!